

## 「神石牛一大ブランド化計画」

## 本単元で育成する資質・能力

探究力・論理的思考力・メタ認知力・協働、合意形成意欲・共感的な態度・本質を志向する価値観

※なお、本校では、上記の資質・能力を児童及び教諭間で共有するために、次の名称を用いている。

自分事への問い追究力（探究力）、かんがえ力（論理的思考力）、ふりかえり力（メタ認知力）みんなと解決したい気持ち（協働、合意形成意欲）、思いやりの心（共感的な態度）、するどい目（本質を志向する価値観）

## 1 単元の配置

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	神石牛の農家 －神石牛を調べよう－（25時間）			神石牛の魅力 －シンポジウムを開こう－（20時間）				神石牛の未来 －地域に伝えよう－（13時間）				

## 2 児童観

児童の資質・能力及び態度の実態を明らかにするために以下のアンケートを行った。

## (1) 「学習方法に関すること」に対する実態

資質・能力	下位項目	アンケート項目	アンケート結果（4段階）			
			とても	やや	あまり	全然
スキル	自分事への問い追究力	・授業を受けるとき、「なぜだろう」「やってみたい」と思っています。				
	かんがえ力	・授業では、自分の考えと理由を相手に分かりやすくなるように発表を工夫しています。				

## (2) 「自分自身に関すること」に対する実態

資質・能力	下位項目	アンケート項目	アンケート結果（4段階）			
			とても	やや	あまり	全然
スキル	ふりかえり力	・学習の振り返りをするときは、「どこまでわかったか」や「学習の方法でうまくいったことや失敗したこと」などの理由を考えています。				
価値観 倫理観	するどい目	・振り返りをするとき、「結局〇〇ってことだな」と単元の学びをすべて結びつけて考えたり、総合の学習を通して「生きることってこういうことが大切なのかな」と考えたりしています。				

## (3) 「他者や社会に関すること」に対する実態

資質・能力	下位項目	アンケート項目	アンケート結果（4段階）			
			とても	やや	あまり	全然
意欲・態度	みんなと解決したい気持ち	・友だちと話し合う時、反対の意見の人と自分の意見をたたかわせて、お互いが納得いく考えをつくらうとしています。				
価値観 倫理観	思いやりの心	・困っていたり、悲しんでいたたり辛そうにしていたりする人がいたら、「どうしたのかな？」「助けてあげたいな」と思って行動します。				

この実態調査により、児童は授業を受けるときほとんどの子が探求心を持って取り組んでいることがわかる。また「他者や社会に関すること」においても、思いやりの心が育っていることがうかがわれる。しかし①学習の振り返りをするときに「どこまでわかったか」や「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由を考えること」が十分できておらず「ふりかえり力」において課題がある。 さ

らにふり返りをするとき、②単元のまとめをすべて結びつけて考えたり、総合の学習の学びを自らが生きることに結びつけて考えたりすることが十分にはできておらず「するどい目」をさらに育てる必要がある。また、③授業において、自分の考えと理由を相手に分かりやすく発表する工夫にも苦手意識を持っており「かんがえ力」を高めていかなければならない。

### 3 単元観

#### (1) 本単元の学習の本質と児童のこれまでの学び

##### ○ 人として生きることの一側面

生きるということには、生涯問い続けるという側面がある。生きる上で社会から投げかけられる多くの問いは、答えの無い問いである。社会からの問いかけを「自分事の問い」としてとらえ、この問いに対して「今ここ」で出する自分の「応え」を出していかななくてはならない。そして「応え」を自分自身をも対象化して、また新たな問いが「この応えでよいのか。」と立ち上がる。この無限の問いかけに対し、諦めず応え続けることが、人として生きることの一側面である。

##### ○ 本校の総合的な学習の時間の目標

地域の人や自然、社会とのかかわりを通して、「自分事の問い」を追究し、主体的・創造的・協働的に課題を解決しようとするとともに、身近な地域の様々な人とのかかわりを通して、地域に対する親しみと愛情を深め、自己の生き方を考えようとする。

本単元「神石牛 ブランド化計画」

##### ○ 本単元で問われる生き方の本質的な問い

自分たちのふるさとと共に生きるということはどういうことなのだろう。

##### ○ 本単元の目標

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
<b>自分事の問い追究力</b> 神石牛一大ブランド化を実現するため解決すべき自分事の問いを明らかにすることができる。 <b>かんがえ力</b> 神石牛一大ブランド化の実現に必要な情報を集め、整理・比較・関連付けて考えることができる。	<b>ふりかえり力</b> わかったことや、自分の学び方の成長、学んだ事の自分にとっての意味、学んだことどうしの関わりについて振り返ることができる。 <b>するどい目</b> 過去から現在、そして未来に向け神石牛の改良・普及に努める人の思いを受け止め、自分のできる行動や活動を真剣に追い求めることができる。	<b>みんなと解決したい気持ち</b> 友だちの考えの良さや違いを受け入れ、協力して課題解決に取り組むことができる。 <b>思いやりの心</b> 友達の追究の状況、困っていること、大変な思いをしていることなどに思いを馳せ、相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができる。

#### 学習材の魅力（学習材自体の価値や子どもにとっての魅力、GTの生き方）

本単元では、地元で神石牛を飼育している農家の方やこれまで神石牛の改良や普及に取り組んで来られた方との交流を通して、神石牛の歴史や神石牛の特質、他の和牛との違いなどを調べ、地域を代表する神石牛をどのようにPRし、その良さをより多くの人に広げていくかというテーマについて取り上げていく。

取り上げる神石牛には、大正から昭和にかけて多くの人に関わり、これを深く慈しみ、現在に至るまで有名ブランドとして育て上げてきた揺るぎない歴史がある。さらには未来に向けてふるさと神石の顔として全国にさらに普及していくことができるという魅力がある。また従事しているGTの小川さんや槌原さん、小林さんの思いに触れさせることで、神石牛にどのような願いを込めて飼育しているか、またその中でどのような苦労や喜びがあるのか、さらにはこれからの神石牛のさらなる普及にはどのような課題があるかなどの認識を子どもたちに育てることができる。まさに意義深い学習材である。

#### 4 指導観

##### (1) 児童の実態調査の課題を受けて、次の工夫を行う。

###### 実態①「ふりかえり力」をつけるために

①については学習の振り返りをするときは、「どこまでわかったか」や「学習の方法でうまくいったことや失敗したこと」などの理由を書かせるようにアドバイスしていく。

###### 実態②「するどい目」を豊かにするために

②については、相手の考えのどこが自分の考えと同じか、どの部分が違うのかなどを真剣に考えながら聞くようにさせる。また提案発表の中で、お互いの提案のすぐれた点、さらなる改善を要する点を見つけ出し指摘できるように支援していく。

###### 実態③「かんがえ力」を高めるために

③については、自分の考えの根拠をメモさせるなど工夫し、相手にどうやったらよりよく理解してもらえるかを常に考えさせ、主張と根拠と理由付けをセットで考え表現させるようにする。

##### (2) 研究主題のかかわりから次の工夫を行う。

###### ①「自分事の問い」をもたせ、追究させるために次の工夫を行う。

###### 手立て①「自分事の問い」を見付けさせるために次の工夫を行う。

- ・実際に神石牛を食べる中で、その美味しさを評価する。
- ・飼育農家の方や神石牛の普及に関わっておられる方との交流の中で、有名ブランドとして神石牛がどのようにして生まれたかに興味を持たせる。
- ・神石牛がどのような歴史を経て現在に至っているか、また今後どのようにすればさらに広く普及できるかに思いを馳せ、仲間と交流する中で自分事の問いを見つけさせる。

###### 手立て②「自分事の問い」を更新し、本質へ向かうために次の工夫を行う。

- ・児童が自分の問いにふさわしい資料を探し求める過程で、直接の聞き取りや電話などでの問い合わせ、インターネットなど、アプローチの仕方がいくつかあることを示し、児童それぞれに「自分事の問い」にあった追究方法を考えさせたり、「自分事の問い」自体を変更・進化させたりできるようにする。
- ・「神石牛の一大ブランド化」に向け、お互いの追究過程を確認させ、考えを深めさせたり、調べる方向性を得させたりするために、学習の中途段階で発表・検討の場を設ける。

###### ②「学び合い」のある単元展開にするために、次の工夫を行う。

###### 手立て③「学び合い」の必要感・切実感をもたせるために次の工夫を行う。

- ・児童の感じ方のずれを起こしたり、児童の考えにそぐわない事実を提示したりして、考えをゆさぶり、学び直しや、調べ直し、自分の考えの変更や付加をしないといけない切実性を感じさせる。

###### 手立て④「学び合い」の「おたずね」「かかわり」「納得探し」「自分の応え」の過程で次の工夫を行う。

- ・意図的指名により、児童の発言の論点を焦点化することで、新たな学習課題を発見させ、個人でまとめ直しをさせ、話し合わせる。

## 5 単元の評価規準

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
<p data-bbox="156 297 400 331"><b>自分事の問い追究力</b></p> <p data-bbox="156 342 549 499">神石牛一大ブランド化を実現するため解決すべき自分事の問いを明らかにすることができている。</p> <p data-bbox="156 555 296 589"><b>かんがえ力</b></p> <p data-bbox="156 600 549 757">神石牛一大ブランド化の実現に必要な情報を集め、整理・比較・関連付けて考えることができている。</p>	<p data-bbox="577 297 742 331"><b>ふりかえり力</b></p> <p data-bbox="577 342 970 544">わかったことや、自分の学び方の成長、学んだ事の自分にとっての意味、学んだことどうしの関わりについて振り返ることができている。</p> <p data-bbox="577 555 715 589"><b>するどい目</b></p> <p data-bbox="577 600 970 801">過去から現在、そして未来に向け神石牛の改良・普及に努める人の思いを受け止め、自分にできる行動や活動を真剣に追い求めようとしている。</p>	<p data-bbox="999 297 1323 331"><b>みんなと解決したい気持ち</b></p> <p data-bbox="999 342 1439 454">友だちの考えの良さや違いを受け入れ、協力して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p data-bbox="999 555 1163 589"><b>思いやりの心</b></p> <p data-bbox="999 600 1439 801">友達の追究の状況、困っていること、大変な思いをしていることなどに思いを馳せ、相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができている。</p>

6 単元の展開 (25 時間)

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
自分事 の問い の設定	<p>1 これまでの自分たちが調べたことからさらに自分事 の問いを見つける。(2時間)</p> <p>(1)榎原さんのお話の内容をふり返り、その中から自分事 の問いを見つける。</p> <p>○神石牛を世界に誇りたい。町長へも話せるようなよいアイデアをみんなで考えて欲しい。 ○より大きく、より美味しいものを、より早く。ここが知恵の絞りどころ。育てる過程でも素晴らしい発想をぜひ出して欲しい。</p>	<p>・1 学期に自分たちが調べたことやG Tから聞 いたことからさらに自分が調べてみたいこと を見つけられるようにする。</p>	<p><b>自分事の問い追究力</b></p> <p>・神石牛のさらなる普及にむけ 自分事の問いを見つけること ができる。(発言・ノート)</p>
情報 収集	<p>2 神石高原町や他県の有名な和牛と比較し、神石牛の育 て方を考える。(4時間)</p> <p>(2)最上級の肉質牛を育てられている肥育農家の方に話を 聞き、神石牛の育て方の特徴をまとめる。 (3)全国的に有名な他県の肉牛について、パンフレットを 取り寄せたり、実際に問い合わせたりして調べる。 (4)大正天皇の棺を乗せた車を引くなど、神石牛の歴史や その歴史の過程で大きな役割を担った人物についても 調べてみる。</p>	<p>・これまで調べたり資料や友だちと交流したり する中で分かった神石牛の肉質の特徴をPR できる形にまとめさせる。 ・肉質等級の評価が低いのはどうした理由によ るのかにも目を向けさせ自分事の課題を深め させる。</p>	<p><b>自分事の問い追究力</b></p> <p>・神石高原町や他県の素晴らしい 牛肉づくりの経験や実績、さ らにPRの手法にも気づくこ とができる。(発言・ノート)</p>
整理・ 分析	<p>3 自分たちの調べてきた神石牛の魅力をPRできるよ うにする。(2時間)</p> <p>(5)これまで調べて集めてきた資料や聞き取りから、改め て神石牛の特徴を整理し、PRできるようにしてい く。</p>	<p>・他県で有名な肉牛について、調べ方も工夫し ながら調べていき、与えるえさなど、その比 較の中であらためて神石牛の魅力を理解でき るようにする。</p>	<p><b>かんがえ力</b></p> <p>・神石牛一大ブランド化の実現 に必要な情報を集め、整理・ 比較・関連付けて考えること ができています。(発言・ノート)</p>
まとめ ・創造 ・表現	<p>4 神石牛の改良・普及に力を尽くした丹下乾三氏につい て調べ、自分たちのPRの仕方を見直し、表現する。(5 時間)</p> <p>(6)丹下氏について、どのようなことをした人かを書籍や インターネットで調べる。 (7)資料が残る油木地区にも足を運び調べる。また詳しい 人から話を聞く。 (8)これまで調べたことをもとに劇にして発表し評価を受 ける。</p>	<p>・子どもたちが関心をもって、調べられるよう に資料の入手の支援をする。 ・今の神石牛は一朝一夕ではつくれなかったこ とを知る中で、地域の先人の役割を理解する。 ・机上の学習だけではなく、実際に資料などが 保存されている油木地区に行き話も聞けるよ うにする。 ・これまでの学習をもとに発表のための台本を つくり、発表できるようにする。</p>	<p><b>するどい目</b></p> <p>・地域の先人たちの思いや願い を受け止め、自分たちにでき ることを考えようとしている。 (発言・ノート)</p> <p><b>思いやりの心</b></p> <p>・過去から現在、そして未来に 向け神石牛の改良・普及に努 める人の思いを受け止め、自 分にできる行動や活動を真剣 に追い求めようとしている。 (発言・ノート)</p>

<p>実行</p>	<p><b>5 神石牛をPRしていくためのシンポジウムを開く。(8時間)</b>  (9)シンポジウムについて学び調べる。  (10)どのように神石牛の特徴をアピールするかを自分たちで考えて工夫をまとめていく。  (11)肥育農家の方や町役場からも担当の方に来て頂き、シンポジウムを開く。(本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神石牛の農家の方とさらに密に連携を取り、神石牛一大ブランド化についてどのような考えを持たれているか聞く。</li> <li>・シンポジウムでの学びは写真やビデオに撮り、もう一度考え直す際の資料にする。</li> <li>・シンポジウムについて方法やポイントを知らせる。</li> </ul>	<p><b>みんなと解決したい気持ち</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウムに向けて互いの考えの共通点や相違点を見付け、意見をまとめようとしている。(発言・ノート)</li> </ul> <p><b>自分事の問い追究力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神石牛一大ブランド化を実現するため解決すべき自分事の問いを明らかにすることができている。(発言・ノート)</li> </ul>
<p>振り返り</p>	<p><b>6 PRの方法を見直す(4時間)</b>  (12)シンポジウムを受け、再度神石牛一大ブランド化に向けてのPRの仕方について練り直す。  (13)まとめたものを交流し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小単元2の活動を振り返らせる。</li> <li>・PRの仕方を見直すとき、子どもたちが交流し合う様子を写真やビデオに撮っておき、振り返りや成長を確かめる材料とする。</li> </ul>	<p><b>ふり返り力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかったことや、自分の学び方の成長、学んだ事の自分にとっての意味、学んだことどうしの関わりについて振り返ることができている。  (発言・ノート)</li> </ul>

7 本時の展開

(1) 本時の目標

シンポジウムを通して、神石牛ブランド化普及推進を実現するための自分事の問題を更新することができる。

(2) 学習の展開

配時	主な発問と児童の反応予想	指導上の留意点 ▲児童への支援	評価規準 (評価方法)
3分  2分	1 シンポジウムの目的を確認する。基調提案（児童代表）  2 課題を確認する。	▲これまでの学習経過も含めて、今日の授業のねらいについても児童の言葉で言えるようにしておく。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     現在の時点でどの提案がよりよくまとめられ説得力があるだろうか。                 </div>			
25分	3 パネルディスカッションを行おう。《パネリスト》 ・児童5グループ代表 それぞれのグループの現時点での提案の骨子を発表してゲストパネリストやフロアの他の児童、参加者に聞いてもらう。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆神石牛を増やす上で困っておられることを農家の人にたずねて、解決のアイデアを提案したい。</li> <li>◆油木高校のナマズや神石ポークとどのようにコラボしていくかアイデアを出して提案したい。</li> <li>◆神石牛の歴史を調べて、試食会を工夫したい。</li> <li>◆神石高原町らしいエサや飼い方を工夫して提案したい。</li> <li>◆かがやきネットなどでコマシャルを工夫して神石牛を広めていきたい。</li> </ul> </div> 4 どの提案がよりよくまとめられているか話し合い発表する。  C：神石牛の頭数を増やせない一つの理由は牛を飼う人が増えていないことにあるのか。肥育農家の声を聞いて提案を考えたのはいいなあ。 C：神石牛と油木高校のナマズのコラボは面白いかも知れないが、先日の社会見学で生産量が少ないという難しさも出ている。特にナマズはまだ数が少ない。どうすればいいかな。でも神石ポークとのコラボは実現できそう。 C：神石牛の試食会に、自分たちがこの間調べた歴史を知らせるコーナーを取	※コーディネーターは教師が行う。  ・5グループそれぞれ2分の持ち時間で自分達の提案を工夫して紹介する。(2分×5=10分)  ・自分の提案とも比べながら根拠を示して意見を出し合わせる。(15分)  ・1人か2人の参観者(保護者、先生方)から感想を出してもらい、子どもたちのやる気を応援する。	

	<p>り入れるのは面白い。  C：神石高原町らしいえさの工夫や飼いや方をすればたしかに神石牛の魅力を広めることができるかも知れない。  C：かがやきネットを活用し宣伝していくアイデアは面白い。絵コンテも工夫しているのがいいな。</p>		
8分	<p>5 ゲストパネリストである2名の方よりアドバイスや感想を出していただく。  《ゲストパネリスト》  ・町役場産業課の担当者  ・神石牛肥育農家の方</p>	<p>・ゲストパネリストからは、それぞれの普及提案の優れた点や実現に向けての改良点などを具体的に出してもらえるようにしておく。</p>	<p><b>自分事の問題追究力</b>  ・シンポジウムを通して、神石牛普及を進めるために解決すべき自分事の問題を更新することができる。(発言・ノート)</p>
4分	<p>6 今日のシンポジウムでなるほどここを改善していけばよいなと思ったことを発表してみよう。</p>	<p>・アドバイスに対して質問したり、納得のいかないところを聞いたりさせる。  ▲時間内に深めた自分事の問題が見つけられない場合、今後も肥育農家の方や行政の方に相談に乗っていただけられることを子どもたちに伝える。</p>	
3分	<p>7 今日の勉強の振り返りをしよう。</p>	<p>・振り返りでは、シンポジウムで学んだ点、自分事の問題の改善点についても振り返らせ発表させる。</p>	

(3) 板書計画

11月26日(木)

神石牛を普及するためのシンポジウム

**課題** 現在の時点でどの提案がよりよくまとめられ説得力があるだろうか。

提案1	提案2	提案3	提案4	提案5
-----	-----	-----	-----	-----

※根拠として出てきた意見を提案ボードの下にメモする。

《2人のゲストパネリストの人からのアドバイスの要点》